動物の適正譲渡のための仕組みの整理について(被譲渡者選定基準の具体化)

令和6年8月23日

第23回船橋市動物愛護管理対策会議

Ⅱ. 動物の致死処分の更なる減少を目指した取組の推進

- **地域の飼い主のいない猫対策の定着・普及**
 - **飼い主のいない猫の不妊手術実施事業の推進、効果の検証**
 - 船橋市犬猫の飼養・管理に関するガイドラインの普及啓発
 - 不適切な給餌者等への指導、助言の徹底
- **動物愛護指導センターにおける適正な飼養管理等**
 - 動物福祉を考えた飼養管理体制の整備
 - 職員の能力や技術の向上
 - 犬猫の引取りに係る手数料の見直しの検討
- **動物の適正譲渡のための仕組みの整理**
 - 譲渡ボランティア団体との連携
 - 子猫の育成ボランティアの育成、サポート
 - **被譲渡者選定基準の具体化**

※第18回船橋市動物愛護管理対策会議資料から抜粋
(赤字は、優先的に取り組むものとして示した事項)

被譲渡者選定基準の具体化について

現在の譲渡の条件(犬又は猫等の譲渡実施要領 第3条)

1 個人譲渡対象者

個人譲渡対象者は、次に示す譲渡対象者の基準に適合する者とする。

- (1) 譲渡される動物を適正に飼養できること。
- (2) 終生飼養できること。
- (3) 不妊去勢手術、またはこれに代わる確実な繁殖制限措置を行えること。
- (4) 原則として市内および近辺に在住する成人であること。
- (5) センターが主催する適正飼養に関する講習会を受講していること。
- (6) 飼養にあたり家族全員の同意が得られていること。
- (7) 飼養場所が集合住宅もしくは借家等の場合、動物の飼養が承認されていることが、規約等の文書で提出できること。
- (8) 誓約書(別記第3号様式)の内容を理解し遵守できること。
- (9) その他、センター所長が必要と認める要件を満たしていること。

被譲渡者選定基準の具体化について

現在の被譲渡者選定基準はHP等では公開していない。

譲渡希望の問い合わせがあった際に内部ルールとして聞き取りを行っている。

主な項目

- 年齢が20～60歳であること
- 単身世帯ではないこと
- 家族の中に動物アレルギーを持つものがないこと
- 終生飼養に必要な経済的余裕があること
- 健康状態に問題がないこと
- 現在複数頭数飼養していないこと

被譲渡者選定基準の具体化について

他市のHP等で公開している選定基準

- 年齢が20～60歳(64歳、65歳の自治体あり)であること
- 県内在住であること
- ペット飼養可の物件に住んでいること
- 単身世帯ではないこと
- 不妊手術すること
- 終生飼養をすること
- 家族の中に動物アレルギーを持つものがないこと
- 家族全員が飼うことに同意していること
- 法令を遵守すること(狂犬病予防法等)

(参考)飼い主からの犬・猫(91日齢以上)の引取りにおける引取り申請者の主な属性

順位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	多頭飼育者	多頭飼育者	多頭飼育者
2	生活困窮者	生活困窮者	単身者
3	単身者	高齢者	生活困窮者
4	高齢者	単身者	高齢者

※ 多頭飼育者であり生活困窮者といったように、複数の属性を持つ場合がある。
上記4つ以外として、アレルギー発症、餌やり継続不可、外飼いによる苦情等による。

被譲渡者選定基準として譲渡条件に追加・修正する事項

- 未成年または概ね65歳以上でないこと(ただし、譲渡対象動物の年齢等によってはこの限りではない)
- 単身世帯でないこと
- 終生飼養するための資金に困窮していないこと
- 家族の中に動物アレルギーを持つ方がいないこと
- 心身の健康状態に問題がないこと
- 飼養頭数が家族構成や災害対策を考慮し、適切に飼養できる数以上とならないこと